

赤十字×NHK 海外たすけあいキャンペーンが始まります ～たすけあいを、忘れない。2012.12.1(土)から12.25(火)まで～

今年も12月1日から25日までの25日間、赤十字とNHKが共同で「NHK海外たすけあいキャンペーン」を実施します。キャンペーン期間中、当支部では、青少年赤十字メンバー・赤十字奉仕団員らと共に街頭募金を行います。皆さまから寄せいただいた募金は、紛争犠牲者、自然災害被災者、難民等の援助に役立てられます。

東日本大震災では、世界160以上の国々や地域から、あたたかい支援をいただきました。日本赤十字社は、海外からの支援により、今も被災地で医療・教育・高齢者福祉などの分野で復興支援を続けています。

「たすけあいを忘れない。」今度は私たちが世界のために。皆さまからのご支援、ご協力をお待ちしています。

街頭募金のスケジュールは下記のとおりです。

- 12月 1日(土) JR姫路駅周辺
 - 12月 2日(日) JR尼崎駅周辺
 - 12月 8日(土) JR垂水駅周辺
 - 12月 9日(日) 阪急宝塚駅前交通広場
 - 12月15日(土) JR明石駅周辺
 - 12月16日(日) JR芦屋駅周辺
 - 12月22日(土) JR神戸駅周辺
 - 12月23日(日) JR三宮駅周辺
- 時間はそれぞれ13時から16時までです。



募金は次の方法でも受付いたします。

ご持参の場合：日本赤十字社兵庫県支部、赤十字病院、献血ルーム、NHK神戸放送局など。または、募金取扱の表示のある金融機関、農協及び漁協など

ご送金の場合：(郵便局・ゆうちょ銀行) 口座記号番号 01110-0-1136
口座加入者名「日本赤十字社兵庫県支部」

※通信欄に「海外たすけあい」とご記入ください

講習のご案内 ～健康で安全な生活を送る知識と技術を～

ようやく涼しくなり、過ごしやすくなりました。

食べ物も美味しい季節ですが、夏の疲れ、風邪など体調を壊しやすい時でもあります。健康には十分に気を付けてください。

安心して毎日を過ごせるように、急な病気やケガを手当する正しい基礎知識と技術を身につけてみませんか？

日本赤十字社は、皆さまが健康で安全な生活を送るためのお手伝いをします。

内容		開催日
救急法基礎講習		平成25年 1月 12日(土) 平成25年 2月 2日(土)
救急法救急員養成講習(2日間)		平成25年 2月 23日(土) 24日(日)
救急法基礎・救急員養成講習(セット講習 3日間)		平成25年 1月 13日(日) 14日(月祝) 19日(土) 平成25年 2月 9日(土) 10日(日) 11日(月祝)
幼児安全法支援員養成講習(3日間)		平成25年 1月 20日(日) 26日(土) 27日(日)
健康生活支援講習(3日間)		平成25年 2月 14日(木) 21日(木) 28日(木)
科目別講習	幼児安全法 こどもに起こりやすい事故の予防と手当について	平成25年 3月 12日(火) 10:00～12:00
	救急法 こどもの一次救命処置	平成25年 3月 12日(火) 13:00～15:00
	救急法 骨折の手当と搬送法	平成25年 3月 12日(火) 15:30～17:30

講習会場は日本赤十字社兵庫県支部です。

詳細及びその他の講習についてはホームページで。

www.hyogo.jrc.or.jp

赤十字 兵庫

検索

ひょうごの赤十字

2012 NOVEMBER 11月

- 赤十字活動推進ポスターコンクール 受賞者が決定
- 西脇市赤十字奉仕団災害救護実習研修訓練
- 声の図書赤十字奉仕団、子供たちに福祉教育
- 姫路赤十字看護専門学校トレーニングセンター
- 赤十字×NHK 海外たすけあいキャンペーンが始まります
- 講習のご案内

日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目4番5号
TEL.(078)241-9889 FAX.(078)241-6990
<http://www.hyogo.jrc.or.jp/>

赤十字活動推進ポスターコンクール 受賞者が決定

～ぼくたち、わたしたちにできること、誰かの力になれること～

「ぼくたち、わたしたちにできること、誰かの力になれること」をテーマに、子どもたちが夏休みの間に赤十字やたすけあい等について考え、ポスターにしてもらうことで、赤十字を知るきっかけになればと始められたこのコンクールも今回で9回目を迎えました。

県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校から48校230点もの多数の作品が寄せられ、「笑顔を守る赤十字」「世界を守る赤十字」「いのちを助ける赤十字」等、工夫をこらしたキャッチコピーと優しい色使いで、人とのつながりやいのちの大切さなどを表現し、どの作品からも子どもたちなりのやさしさや「赤十字感」を感じることができました。

9月27日(木)に審査会を開催し、最優秀賞に南あわじ市立三原中学校の濱口真衣さんの作品が選ばれました。審査の先生方からも「人が包み込むポーズで、人や動物をサポートし、優しさに溢れる素晴らしい作品」と高評価をいただきました。

最優秀賞



南あわじ市立三原中学校
2年 濱口 真衣



兵庫県立姫路聴覚特別支援学校
小学部6年 常見 萌乃

(敬称略)

※入賞作品は兵庫県支部のホームページで紹介するほか、兵庫県内数カ所で開催予定です。展示会場は決まり次第、ホームページでお知らせします。

優秀賞
4作品



兵庫県立明石高等学校
1年 戸田 千尋



加古川市立中部中学校1年
園田 ほのか



明石市立山手小学校
5年 山野 椋平

声の図書赤十字奉仕団、子供たちに福祉教育

9月25日(火)、青少年赤十字加盟校である神戸市立高丸小学校において、青少年赤十字提供プログラムの福祉教育プログラムとして、4年生の子供たちに車いす体験をしていただきました。

当日は、兵庫県声の図書赤十字奉仕団の皆さんにご協力をいただき、総合的な学習の時間を使って、この提供プログラムを開催。

学校に到着すると、すぐさま奉仕団の皆さんは、運動場や校舎の廊下にあるスロープ(坂道)や段差など、子供たちが日常的に使っている場所を体験コースに設定し、車いすを利用する方々の不便さ、操作方法などを理解してもらえよう、色々と工夫されていました。

提供プログラムが始まると、子供たちは車いすの使い方や注意事項など、奉仕団の皆さんの話を熱心に聴き、質問を投げかけていました。

車いす体験は、お友達とペアになり、「介助する人」と「けがをした人」という設定で行われました。慣れない車いすの押し方や、普段はなんでもない校舎の段差や坂などに手こずりながらも一生懸命に頑張る子供たちに、奉仕団の皆さんも優しく丁寧に指導されていました。

けがをした人を気遣い、車いすを上手に操作できるようになり、プログラムに参加した子供たち1人1人に、人を思いやる優しい心が身に付き、車いすに乗っている人たちの気持ちが少し理解できる時間になりました。

8月～9月の青少年赤十字提供プログラム

- 健康・安全
兵庫県立明石城西高等学校
神戸市立神戸生田中学校
神戸市立広陵中学校
高砂市立鹿島中学校
西脇市立西脇小学校
- 防災教育
兵庫県立龍野北高等学校
高砂市立鹿島中学校
- 福祉教育
伊丹市立神澤小学校
神戸市立高丸小学校
- 国際理解・平和
兵庫県立川西明峰高等学校



上り坂になると、とても重くなります



こんなに低い段差でも車いすは大変

姫路赤十字看護専門学校トレーニングセンター

～災害時の、救護技術・心構え、そして行動力を養うために～



スクープストレッチャーの使い方もしっかりと



通信訓練。聞こえますか?どうぞ

10月10日(水)、宍粟市生涯学習センター学遊館アイビードームで、姫路赤十字看護専門学校のトレーニングセンターが開催されました。

3学年のうち、1年生、2年生の看護学生が参加するこのトレーニングセンターは、赤十字看護専門学校の教育課程の一環として、災害救護活動への理解を深め、災害時の基本的な救護技術、心構えと態度、行動力を養うことを目的に、毎年開催しています。

午前中は災害救護訓練の本番に備え、赤十字救護班として機敏に動くための基礎行動訓練や、エアータントとワンタッチテントを使った救護所設営訓練、業務無線を使った通信訓練、担架やバックボード、スクープストレッチャーなどを使っての傷病者搬送の訓練を行いました。

午後からは、いよいよ訓練本番。西播磨地域を震源とする直下型地震の発生により、多くの負傷者が出たことを想定して災害救護訓練開始。2年生は赤十字救護班の医師、看護師、主事などの救護員を、1年生はトラウマメークを施し、助けを求める傷病者役を熱演。救護班の学生たちは、傷病者のトリアージ(傷病者判定基準)、的確な応急手当、迅速な後方搬送先の病院への調整など、戸惑いながらも実際の災害現場さながらの緊迫した救護活動を展開。

今回のトレーニングセンターで看護学生たちは、赤十字救護班の看護師として自分たちの役割を明確化し、またメンバーとの連携を通して大きく成長することができました。

西脇市赤十字奉仕団災害救護実習研修訓練

～防災意識をさらに高めるために～

9月26日(水)、西脇市総合福祉センター「萩ヶ瀬会館」において、平成24年度西脇市赤十字奉仕団災害救護実践研修訓練が開催されました。

今回の訓練には、西山恵美子委員長をはじめ奉仕団員22名が参加。災害が発生した時に奉仕団として被災者の支援を効果的に行えるよう、訓練に取り組みました。

午前中は、女性団員だけでも簡単に設置することができるワンタッチテントを、掛け声を出して皆で息を合わせて立ち上げたり、無線通信訓練、大型炊飯器を使っての炊き出し訓練等、いざというときに団員同士が連携して、手際よく活動が行えるよう作業の手順を確認しました。

午後からは「赤十字災害時高齢者生活支援講習」を受講。災害時の避難所で、高齢者の皆さんが感じる不自由やストレスについて、多可赤十字病院の高田看護師長、佐藤看護師長とともに考え、それらを軽減するために、奉仕団員で実践できる知識と技術として、タオルケットや毛布を使ったガウンの作り方、スキップを図るリラクゼーション、タオルと少量のお湯でできるホットタオルの作り方など、普段から身の回りにある物を使い、「なるほど」感じながら楽しく学びました。

万が一、災害が起こった時に、自分達の地域は自分達で守るという防災意識が更に高まった一日となりました。



息を合わせてワンタッチテント立ち上げ



タオルケットもガウンに早変わり